

採血を受けられる患者さまへ

採血について

「採血」は病気の診断、病状把握を行うために必要な医療行為の一つです。

当採血室では、国家資格を有する臨床検査技師が採血を担当しており、安全性の高い手技で行いますが、まれに合併症（併発症）がおきることがあります。

採血によって得られる情報が、採血を行う危険性より重要であると担当医が判断した場合に採血をお勧めしています。このような「採血」の必要性・危険性をご了解の上、採血をお受けいただきますようお願いいたします。

採血を受けられる患者さまへのお願い

<本人確認>

- ・ 採血取間違い防止のため、姓名を名のっていただいております。

- ・ アルコールや絆創膏で皮膚がかぶれたことのある方
- ・ 採血中にご気分が悪くなったことがある方

<スタッフに

- ・ 血液透析中の方

お伝えください>

- ・ 乳房切除を受けられた方
- ・ 血液を固まりにくくするお薬を服用している方
- ・ その他、ご不明な点、ご不安な点がございましたらスタッフにお申し出ください。

採血合併症（併発症）について

「採血」は、基本的に安全な手技ですが、極まれに次のような合併症が生じることがあります。

皮下に漏れ出た血液の塊で主に穿刺後の不十分な止血により生じます。

採血後は針を刺した場所を5分間しっかり押さえてください。

◆皮下血腫

（血液を固まりにくくするお薬を服用しているかたは、さらに長めに押さえてください）

まれに神経に針がふれて手指へ広がる痛み、しびれを生じることがあります。神経と血管の位置関係は個人差が大きく神経に触れることを完全に防ぐことはできませんが、大部分は特別な治療をしなくとも数週間以内（ほぼ1週間以内）に症状はなくなります。

◆神経損傷

採血中に指先に痛みやしびれ、我慢できない痛みを生じたときにはお申し出ください。

（針を刺した場所の痛みは、通常心配ありません）

◆迷走神経反射

採血中に一時的に気分不快、冷汗、失神を生じることがあります。

これまでに採血中にこのような症状があった方はお申し出ください。
